二松學舍新聞

発行
学校法人 二松學舍
東京都千代田区三番町6-16
03(3261)7407
http://www.nishogakusha-u.ac.jp/

文科省 21世紀COEプログラムに採択

革新的な学術分野の研究拠点に 本学の「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」が選ばれる

21世紀COEプログラムは、文部科学省が「我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を学問分野別に形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成をはかるため、重点的な支援を行い、もって、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進することを目的として」、平成十四年度から始めた特別事業である。支援の内容は、事業一件につき年間一億円から五億円の範囲で五年間の支援を行うという魅力的な内容で、募集は平成十四年度と十五年度、毎年五分野ずつ、二年で十の学問分野で行われた。

当初この事業は、我が国の国公私立大学の中から世界的な研究教育拠点となりうる「トップ30」の大学を選び出すためと喧伝されたこともあって、各大学はそれぞれの威信と大学の将来をかけて申請を行った。

本学も、第一回の平成十四年度の募集には、「人文科学」分野に「日本漢学研究教育法及び文献センターの構築」のプログラムで応募した。「国漢の二松」と言われ、国語と漢文の研究教育に長い伝統をもち、社会的に高く評価されている本学の特色を前面に推し出して計画をまとめた。だが結果は、残念ながら採択には至らなかった。

申請は不採択であったものの、本学は申請と同時に日本漢学の研究教育拠点づくりを開始して、次回の募集に備えた。一つは、平成十四年秋に国際漢字文献資料センターを立ち上げて専任教員を配置し、若手研究者等の養成のための公開講座・講習会を開始したこと、二つには、平成十五年度から文学研究科中国学専攻のカリキュラムを改編し、中国学・日本漢学・総合文化学の三講座に分け、中国学・朝鮮学と日本漢学の関連を明確に打ち出したこと、三つには、平成十六年度の国際シンポジウム開催の準備に取りかかったことである。

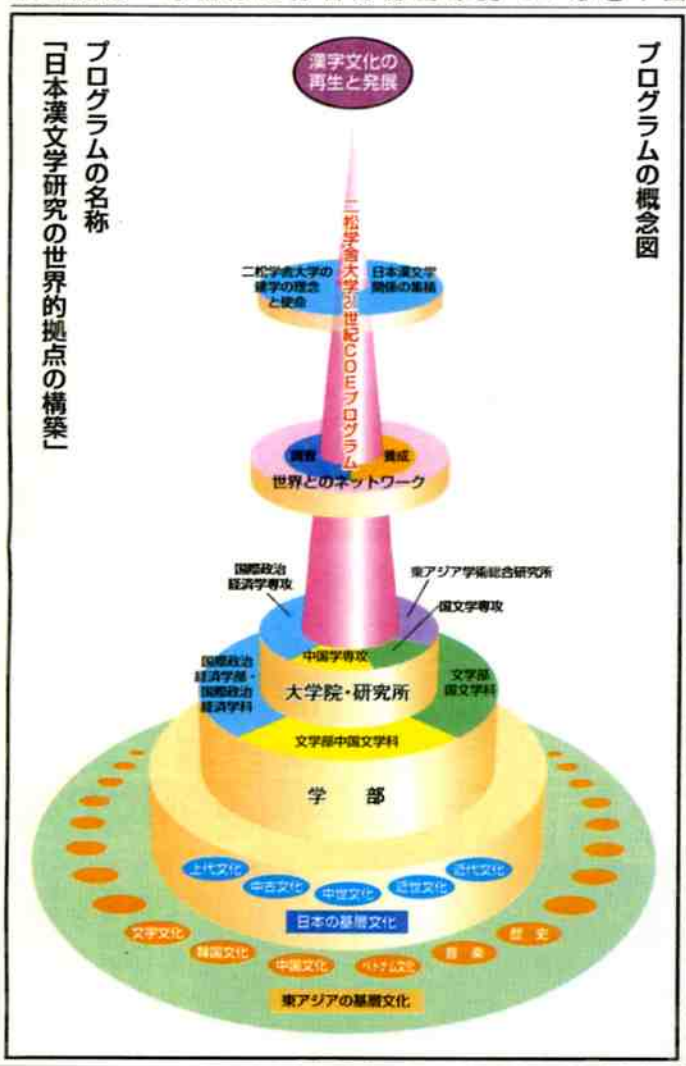
平成十六年度の21世紀COEプログラムは、前年度までの学問分野別とは一転して、「革新的な学術分野」一つに絞った募集となり、人文・社会・自然のすべての分野が横一線に並んで競うことになった。本学は前回の計画の見直しと、これまで準備してきたことを踏まえて、「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」を新たなプログラムとして申請した。

今回の申請は全体で三百二十件の多数にのぼったが、本学のプログラムは四十四件のヒアリング対象の中に選ばれ、六月十五日に21世紀COEプログラム委員会のヒアリングを受けて、七月二十二日、正式に採択の通知が届いた。「採択理由」として示された委員会のコメントは、「日本学として漢文研究を振興するために、本拠点形成計画は極めて重要である」と、本事業の目的と意義、及び本学の伝統を高く評価するものであった。

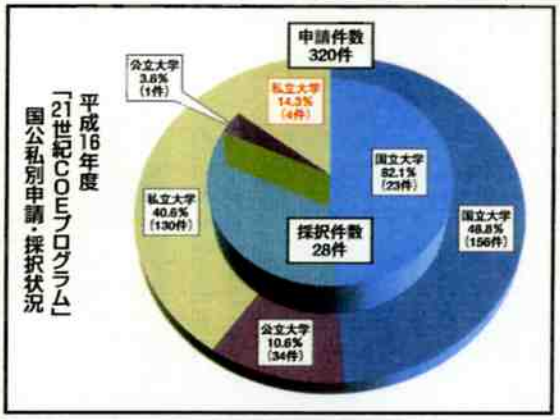
プログラムを構築する四つの柱

日本漢文学研究の世界的拠点を構築するために本学が計画している事業は、次の四点にまとめることができる。（一）日本人の手になる漢字漢文文献を世界規模で網羅的に所在調査を実施し、データベース化して世界に発信する基地をつくる。（二）国際シンポジウムや共同研究などを通じて、日本漢文学研究者の世界的なネットワークをつくる。（三）若手研究者及び書誌的調査の専門家を養成するために、講演会や講習会等を開催する。（四）漢文教育の充実と振興のために漢文教科書の編纂、漢文教育法の研究を行う。

これらの事業は、五年（実際には四年半）と限られた時間の中ですべてやり終えることは到底不可能である。また簡単に終わりにすべきものでもない。21世紀COEプログラムに採択されたということは、とりもなおさず本事業が本学の任務として社会的に公認されたことであり、本学が今後も永く事業を続けて行く責任を負わされたことを意味する。今回のプログラムは、将来の持続のための基礎づくりと考えている。



プログラムの名称
「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」



平成16年度
「21世紀COEプログラム」
国公私別申請・採択状況